

令和元年度 全国学力・学習状況調査(6年生100名実施)の結果から

我孫子市立高野山小学校
教 務 部

国語

○観点別正答率

- ・「話すこと・聞くこと」は平均より高い。
- ・「読むこと」の観点については、平均とほぼ同じ。
- ・「書くこと」、「言語事項」の観点については、平均より下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・選択式の正答率については、平均と同程度。
- ・短答式、記述式の正答率については、やや低くなっている。

算数

○観点別正答率

- ・「図形」の観点については、平均より高い。
- ・「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」については、全国平均よりも下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・選択式については、平均より高くなっている。
- ・短答式、記述式については平均を上回っている。

児童質問紙調査

○国語への関心、自己有用感、規範意識は全国平均と同じくらいである。

○生活習慣は少し低く、算数への関心は他の4つの数値と比較しても、大きな差があることがよくわかる。

<結果からわかる成果と課題への取り組み> ○…成果 ▲…課題

国語

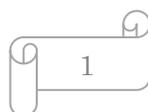
「話すこと・聞くこと」

○国語の学習だけでなく、他教科でも子ども達の対話場面を設定することで、話すこと・聞くことの力を高めている。

▲学習だけでなく、生活場面の中でも、意図的に自分の考えを話す場を設定することで、より力を伸ばしていきたい。

「書くこと」

▲問題は、文章中から言葉や文を取り上げ、適切な表現を用いて、40字以上70字以内で書くという問題であった。解答の傾向を見てみると、文書から情報を抜き出すということができていない児童が非常に多いことがわかる。「読むこと」の力にもつながっている。



<授業改善>

- ・昨年度から言われていることだが、日常的に書く場面を多く設定し、認め承認する場面を多く設けることで、苦手意識を少しずつでも解消していくこと。
- ・書くことについても、より具体的なものを書くようにし、交流等を通して、書くことが楽しいと思えるような活動を設定すること。

例) ×読んだ後に感想を書きましょう ➡ ○このお話の中で一番好きな場面を書きましょう (理由も)
×書いたものを発表 ➡ ○みんなでノートを持ち寄って、同じ場面の人を見つけ、理由を交流等

「言語事項」

- ▲児童の答えを見てみると、「対」という字を8割以上の児童が書くことができているが、「象」という字がわからないと答える児童が多くいた。漢字自体は覚えていても、意味によつての使い分けができていない。

<授業改善>

- ・ただ単に漢字を覚えるだけでなく、辞書等を活用して意味をきちんと区別したり、使い分けができるようテストを工夫したりして、学年関係なく、学校全体で取り組んでいくことが必要である。

「問題形式」

- ▲今回のテストでは、問題形式ごとに大きな差は見られなかった。ただ、この後の算数でも触れているが、自分の考えを文章で伝えるという力が足りていない。
- ・国語だけに限らず、さまざまな教科で、自分の考えや意見を文章化するということが必要になってくる。

算数

「図形」

○台形の定義について、100人中99人ができていた。また、三角形、四角形それぞれの公式も間違えずに計算できる児童が多くいた。このことから児童は図形の基礎的知識について、おおむね身につけているということが考えられる。

- ▲それぞれの図形の公式を求めることができているが、正答までたどり着いた児童は少ない。知識を活用して、説明するという力が足りていない。

<授業改善> ・習得した知識を活用して、活用する時間を、授業の中で意図的に設けることが必要だと考える。

例) 確かめ 今日の学習ではこのようなやり方で進めればできることがわかった。**だったら**この問題では同じようにできるかな？

(できれば、計算だけでなく、口でも説明できるようになど工夫して)

- ・授業の中で、自分の考えを相手にわかりやすく伝える場面を設ける。

例) ×じゃあ今日の学習問題はどんな学習問題になるかな？

○じゃあ今日の学習問題はどんな学習問題になるかな？⇒隣の人に自分の考えたものを伝えてみよう。

小さなことだが、このように相手に伝える習慣をつけることで、説明するための素地を培う。

「数と計算」「数量」

- ▲算数2(4)の問題は、 $6+0$ 、 5×2 という、たし算とかけ算が混合した式だが、7という答えを導き出すことができなかった児童が多くいた。たし算とかけ算が混合した式の場合、かけ算から計算するとい

うきまりが理解できていない可能性がある。

▲算数3(2)の問題では、 $600 \div 15$ の式で、「わられる数、わる数に同じ数をかけても(わっても)答えは変わらない」という考え方をを使い、それを具体的な数値を用いて回答する、問題であったが正答率が非常に低かった。上記の考え方は3・4年生で既に既習済みであり、計算を効率よく行う上で大切な知識であるが、子ども達に浸透していない。

<授業改善>

- ・先程述べた通り、3・4年生で学習することであるが、学年が上がっても、効率よく計算すべき場面が出た際には、立ち止まり、その都度仕組みを再認識させることが大切である。また、単元末で行う単元の中にも、計算の仕組みを活用することで、効率よく計算できる場面が必ずあるはずである。そのような場面で定着を図るチャンスの場合と捉え指導していくことが大切である。

「量と測定」「数量関係」

▲身近な生活の中にある、行列に並んだ時にかかる時間から問題が出題された。人が並んだ時に3ポール進むのに9分かかるということから、7ポール進むのには何分かかり、24分間の間に、間に合うかどうか、答えるという問題であった。 $9 \div 3$ をして、1ポールに3分かかるとことがわかれば、7ポールで21分ということが分かり、24分間の間につくことができると証明できる。ただ、全くこの考え方に触れられなかった児童がおり、横に同様の考え方が解説されているにも関わらず、考えを導き出すことができなかったということがわかる。似たような考え方を元に活用して説明する力が不足している児童がいるということではないだろうか。

<授業改善>

- ・5年生で学習する単位量あたりの大きさを基に考えるやり方は、計算だけで考えるとややこしくなる。授業の中で、線分図や数直線等を活用することで、視覚化することで有効であると考え。低学年の内から絵や図を活用して、説明する活動を意図的に実施することで、視覚に訴えて説明する力が育まれるのではないかと。

「問題形式」

- ・記述式の問題の正答率が、全国平均よりも下回っていた。
- ・国語でも、述べたようにさまざまな教科で、自分の考えや意見を文章化することが必要である。
- ・授業だけでなく、児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。
例) 低学年の場合、常日頃から生徒指導案件を子どもが訴えてくる。その際に、時間がないので、先生主体で進めてしまう姿がよく見受けられるが、そこで、「どんな気持ちになったの」、「じゃあ先生にどうしてほしいの」など、子ども達に具体的な言葉を話す場面を設けることで、子どもにきちんと説明する習慣がつく。

児童質問紙・クロス調査から

質問については、全部で58個あり、学習面・生活面等多岐に渡る質問項目がある。昨年同様、生活習慣がきちんと成立している児童ほど学力が高くなることについては、昨年同様である。また、国語や算数について興味・関心の強い児童ほど、学力が高くなる傾向になっているのも、例年通りとなっている。

<学級担任に対して認めてくれている・分かるまで教えてくれていると感じている児童ほど学力が高い傾向にある>

<読書をよくする児童・新聞をよく読む児童は、学力が高い傾向にある。>

<新聞をよりよく読んでいる児童ほど、学力が高い傾向にあり、特に国語では、顕著にあらわれている。>